

32 延焼拡大・避難状況

【関連章第9章】

事例 「スプリンクラー設備の補助散水栓を活用した初期消火が実施され、避難誘導により 300 人以上が避難した火災」

出火時分 12 月 3 時ごろ
用 途 等 病院 耐火造 10/2 延 40,000 m²
防火管理 該当選任あり 消防計画あり
被害状況 建物部分焼 1 棟 7 m²等焼損
概 要

この火災は、病院7階の処理室から出火したものです。

出火原因は、処理室内に設置された洗浄ポンプ用のコンデンサが何らかの要因で絶縁劣化し内部短絡を起こし出火したものです。ナースステーションで勤務していた看護師が何らかの警報音が聞こえたため確認すると、処理室から黒煙が噴出し天井まで炎が立ち上がっているのを発見しました。防災センター要員が消防用設備等総合盤で7階蓄積表示を、その後「火災報」の受信を確認したことから固定電話で119番通報をしています。火災を発見した看護師はスプリンクラー設備の補助散水栓を活用して初期消火を実施し、炎は見えなくなったものの黒煙の噴出が続いていたことから消火を諦め、入院患者の避難誘導にあたりました。各階の受け持ち医師、看護師等及び防災センター要員が手分けして入院患者の避難誘導及び搬送を行い、約300人を一人の負傷者も出すことなく他の棟や屋外など安全な場所へ避難することができました。

教 訓 等

本火災においては、夜間勤務中であつた看護師が異常を発見し、設置されている消防用設備等を活用し初期消火を行っています。日頃から自衛消防訓練を重ねていたことで消防用設備等の設置位置や取扱い方法を熟知していたことが迅速な初期消火に繋がったものと考えられます。また、夜間の勤務体制で従業員が少ないにもかかわらず防災センター要員と連携し迅速安全な避難誘導で負傷者を一人も出さず避難できたことも訓練の効果が表われたものと考えられます。

病院では自力で避難することができない入院患者も多いことから、火災が起こった際には迅速かつ確実安全な避難、被害を最小限にとどめるべく消防用設備等を有効活用した初期消火並びに早期な通報を行うことが重要になります。定期的な自衛消防訓練を形骸化させないために様々な場合を想定した実践的な訓練を繰り返し、消防計画どおりの対応ができるよう従業員各自が防火管理技術の向上に努めましょう。



写真 32-1 処理室の状況



写真 32-2 補助散水栓の状況